

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191000058		
法人名	株式会社SOYOKAZE		
事業所名	江別ケアパークそよ風 グループホーム しらかばユニット		
所在地	江別市1条3丁目12-2		
自己評価作成日	令和5年3月30日	評価結果市町村受理日	令和5年8月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

看護師が常駐しており健康面、体調面に不安がある方でもご入居して頂けます。急な体調不良、不慮の事故等による外傷時の受診等も柔軟に対応させて頂いております。往診契約中の江別内科クリニックの医師、看護師との連携が強く、急な発熱時等グループホーム内で点滴治療等行っています。アットホームな雰囲気を大切にしながら家族様との連携を密にしています。スタッフ一丸となりお客様ファーストであることを忘れずにご利用されているお客様はもちろん介護を提供しているスタッフ達も楽しんで介護に携わりとても笑顔の絶えない元氣なグループホームです！！

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0190400614-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和5年5月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、市街中心部に車で10分程の住宅街に位置し、JR江別駅に至近で交通の便も良く、生活の利便性が高い環境下に立地している。建物は鉄筋5階建ての有料老人ホーム、デイサービス、ショートステイとの複合型で、グループホームには2ユニット18名の利用者が生活を共にしている。職員は管理者を中心に利用者の観察・傾聴に努め、利用者・家族の意向を受け止めて、地域での以前と変わらない関係の継続と、共同生活の場として互いに補い合い、楽しみある生活となるよう支援している。また、基本理念を申し送りや会議の場で理解を深めながら日々の介護目標とし、その実践に努めている。運営推進会議は、現在も書面開催としているが、家族、地域代表、地域包括支援センター等に日常の運営状況の詳細を書面で送付し、意見を聞き取ることで運営に反映するよう努めている。看護師が管理者に着任した新体制では、健康面、体調面の他、日々の職員による気付き等、家族への定期的な連絡や意見聴取について、様々な手段を検討していることから、その進展に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に掲示し周知しています。スタッフ全員が同じ方向を向いてケアを実践しています。	事業所理念を各所に掲示し、意識付けしている。管理者を中心に、申し送りや会議の場で理念への理解を深め、その実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で実施できていません。今後はボランティアの受け入れ等行っていききたいと思います。	通例では町内会、地域活動に積極的に参加している。相互に自粛中の為、引き続き近況報告、挨拶を交わすことで地域町内会との関係維持に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響で実施できていません。今後は事業所に対しての理解が深まる取り組みをしていききたいと思います。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で実施できていません。今後は地域との繋がりを持てる行事を計画していききたいと思います。	通例では家族、地域代表、市窓口、包括支援センター等の参加で定例で開催、行事や研修、職員の動向等を報告して意見や検証を受け、サービス向上に繋げている。現在は書面開催としている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	江別市役所介護保険課の方と連絡を取り合っています。	市、地域包括支援センターから情報提供・アドバイスを得ている。また、包括主催の活動への協力や運営状況、事業所での取り組みについて報告し、情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を3カ月に1回実施しています。管理者が出席し、スタッフに周知、徹底しています。身体拘束の事例はありません。	身体拘束委員会を設置し、定例で開催、内容について職員に周知している。全利用者の現状の確認と定期的に研修の機会を作り、禁止となる具体的な行為等について学んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会で虐待防止についても触れられています。虐待の芽シートを活用し江別ケアパークそよ風全体で虐待防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	3月に研修がありました。資料を用いてスタッフに周知しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、ここに説明し、同意を得ています。重要事項説明書に変更がある場合は都度、説明し別紙の重要事項説明書を郵送、署名を頂き同意を得ています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	グループホームのエレベーターホールにご意見箱を設置しています。運営に関する質問があった場合は速やかに支配人へ報告し、支配人より説明していただいています。	家族の来訪時や電話等で利用者の生活状況、体調面を説明し、意向を傾聴して、理解を得るよう努めている。また推進会議でも議事録を基に意向を聞き取り、運営に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議を行い提案できる機会を設けています。また、人事考課面談にて面談する機会を確保し意見を聞いています。	会議や日常業務の場で、職員との意見交換の機会を作り、個別の意向、提案の聞き取りを行って運営に活かしている。また、人事考課として個別面談が定例で行われ、自己評価の達成度について話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きがいある職場づくりの一環として人事考課制度を導入しております。また、資格取得の際の研修費等の負担等向上心を持って働けるよう支援しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の定期的な研修があります。ほかに、社内研修や外部の研修でも職員一人ひとりが興味のある研修に参加できるように情報提供しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響で他のセクションとの交流はないが4役会議や全体会議にて全セクションの管理者同士意見交換を毎月行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様のお話しされていたことをそのまま記録に残すようにしています。お客様ひとり一人の思いを知り要望を職員間で共有しています。必要であればご家族様に確認し、意向を実現できるよう周知し取り組んでいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	体調不良や何かあった時だけではなく面会時にご家族様にお会いした時はお顔を見てお声掛けさせて頂いています。その時に近況や生活状況等もお伝えしています。その都度細かなことでもご家族様が電話連絡しお話しできる様努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	コロナの影響でご家族様との意見交換会等は実現できていませんが、訪問歯科、内科往診、調剤薬局の導入等のサービスを取り入れています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭き等は職員だけでは行わずご入居者様と一緒にい役割を持った関りを行っています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お話しできるお客様にはケアマネジャーを通しグループホームでどう生活していきたいか等を聞き取っています。それを踏まえて今の課題について一緒に考えたり、ご家族にもケアプランを送付した際にご本人のお気持ちを伝えし出来る限り偏りのない支援につなげる努力を行っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響でご家族様以外の面会ができないため以前のように関りを持っていません。	通例では、馴染み希望する場所への訪問は、職員の同行や家族の協力を得て、支援している。コロナ禍において、現在は電話連絡や手紙の頻度を上げることで、関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶碗拭きや洗濯畳みと一緒にして頂いたり、ユニット全体のレクリエーション(風船バレー、かるた大会等)ご入居者様同士が関われる環境を多く見つけ共同生活が送れる様努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了の理由が病気によりグループホームでの生活が困難になった、入院中にご逝去された当の理由が多く関係を続けていくことが不可能です。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が日ごろの会話で得た情報を記録に残すようにしています。それを元にケアマネジャーがご本人、ご家族の以降や思いをお聞きしてケアプランを作成しています。	利用者本人からの意向の聞き取りに注力し、記録を職員間で共有している。家族からも情報を得て、定期的にあセスメントを行い、プラン化に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の面会時に聞き取りを行いこれまでの生活を把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態変化を観察し記録に残しています。必要時カンファレンスを実施しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の日々の状態をお伝えしたうえでご家族様の思いを聞き意向や要望を取り入れケアプランを作成しています。	管理者を中心に、職員間で日々の気付きやモニタリング結果を検証して、本人・家族の要望や職員、医療機関の意見を反映した介護計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は日常生活記録、支援経過(ケアプランに直接反映される記録)と別れています。日々の記録からも問題点や様子を共有でき、かつケアプランの見直しが行いやすいよう記録を残すようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診が困難なご家族様に対してはそよ風のリフト車で送迎し、看護師が同行致します。受診後ご家族様に電話連絡を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の財源を把握できていません。今後は地域外縁を把握し楽しみのある支援を行っていきたいです。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回江別内科クリニックの訪問診療と週1回のひまわり歯科往診あり。ご家族様のご希望があれば高受信リフト車で送迎、看護師の同行を行っています。	本人、家族の要望を伺い、かかりつけ医とのつながりを大切に支援するよう努めている。医療機関での受診結果、健康状態については、看護師である管理者の記録・アドバイスを職員間で共有し、家族にも伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師常駐あり。看護師への緊急連絡体制を整え病院との連携がスムーズにできる様支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お客様の入院された病院の看護師、ソーシャルワーカーと連携し退院調整等を看護師を中心にスムーズに行えるようにしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	加算取れず看取り介護を行っていないため体調不良→入院→重症化→退居の流れとなります。重要事項説明書に記載し同意を得ています。	重度化や終末期における対応は、契約時に文書で説明し同意を得ている。重篤となった場合は、医療機関へお願いしているが、本人や家族の希望により、可能な限り寄り添えるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置(有料老人ホーム内総合事務所)職員全員AED使用手順の講習を受けています。フローチャート活用し冷静に行動できる様努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各セクション合同にて夜間、日中を想定した避難訓練、消防訓練年2回施行しています。	複合型施設の為、火災について、具体的な想定での合同避難訓練を定例で実施している。指定避難場所や地域町内会との協力体制、役割も含めて確認しながら、不意の災害に備えている。	地震、水害等、自然災害を想定した避難訓練の充実を検討している。進展に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権擁護に関する研修を開催しています。認知症があっても周りとの関わりかたを考えお客様ひとり一人を尊重し今できることを見つけていけるよう努めています。	職員は、接遇が介護の基本であることを理解し、個別対応を原則として声掛け、トイレ誘導や入浴時の対応を丁寧に行う等、尊厳を損なう事のないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思を伝えられるお客様には以降を確認し、判断してもらっています。意思の伝えられないお客様に関しては都度、ご家族様に確認し判断して頂いています。入浴についても意思を確認してご本人の判断を尊重しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ここに合わせた生活リズムを大切に支援しています。(起床時間、食事の好み、入浴日、入浴時間等)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択等支援しています。季節に合った衣類を着て快適に過ごしていただく援助を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出前レク等行事の時にはお客様の食べたいものを聞き取り、出前レクを開催しています。	利用者の希望、季節感を大切に食事を心掛けている。好きなお手伝いをお願いし、楽しんで調理に参加出来るよう、職員が工夫している。コロナ禍においては、出前レクで外食気分を味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は毎日記録に残しています。低下がみられたり体調不良の時は主治医へ報告しています。栄養剤(エンシュアリキッド)を処方していただき食事量に合わせて飲用して頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身でできる方にはなるべくご自身で行って頂いています。できない方には介助させて頂いています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から個々の排便パターンを把握し、その方に合った時間にお声掛けし誘導させて頂いています。失禁がある方には自尊心を傷つけないよう配慮し交換しています。	トイレでの排泄を目指しており、利用者一人ひとりの排泄サインを見逃さずに誘導等、支援し、排泄の自立を目指して取り組んでいる。衛生用品は体調、体型に合ったものに随時見直している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足にならないようご本人の好みに合わせたお飲み物の提供を行っています。おやつにはヨーグルトとフルーツ等を召し上がって頂き個々に応じて対応しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているがご本人が望まない場合は変更を行っています。	週2回の入浴を支援している。拒否がある人には時間・日程を変更し、本人の状態や希望に応じて、柔軟な対応に努めている。同性介助の希望も聞き取っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況を見て画商、静養の時間を作っています。夜間はお客様のペースでナイトケアを行い入床して頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	排便、皮膚状態、食事摂取量、体調や行動、言動に変化があれば往診時に主治医に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活や趣味が継続してできる様支援しています。お客様のご希望の新聞を購読しています(北海道新聞、聖教新聞)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で行えていませんが今後は感染対策を行いながら季節を感じて頂ける行事、ご家族様が参加できる行事の企画も行って行きたいと思えます。	通例では季節のドライブや普段からの外出も買い物等、気楽に出かけられるように努めている。また散歩時はご近所さんと気軽に会話を楽しむ等、日常的に行えるように外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍のため外出して買い物することはありませんでした。できるのであればお客様に直接レジでお支払いして好きなものを購入して頂きたいです。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様に電話を掛けたい時は以降に沿っています。携帯電話の持ち込み可能なので持っている方は自由に電話されています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	グループホーム内の飾りつけ等季節感が感じられるよう心がけています。また、温度、湿度も一定にし、過ごしやすい空間づくりに努めています。	リビングは採光が良く、温湿度が適切に保たれた解放的な作りとなっており、四季を感じる作品や行事の写真で飾られている。コロナ禍において、共同生活の場として面会を制限せざるを得ない現状においても、事業所としての方針を周知し、家族に理解を求めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席を固定せずもっとご自由に座って頂きたいのですが過去にトラブルになった経緯あり席を決めて座って頂いています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能であれば在宅で使われていたベッド、タンス、家具を持ってきていただくよう入居時にご家族様に説明し、自宅に近い環境づくりに努めています。	自宅から使い慣れた家具や生活雑貨が持ち込まれている。状態の変化が見られた場合は、本人や家族と相談して整理・模様替えを行い、自室として、安心して過ごせる環境づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お誕生日会のお知らせを大きい掲示物を作成し掲示しています。大きなカレンダーを各ユニットに掲示し、何月か、何日かわかりやすく理解して頂けるようにしている。		